

令和8年度学校経営計画

1 目指す学校像

(1) 教育目標 『 たくましく 心豊かに 』

～言語力を向上させ、自分のよさや可能性を最大限に伸ばし、「共生・共育」社会を実現する担い手として自ら考え、判断し、実践できる人を育てる～

(2) 目指す子ども像

- 自ら人とかかわり、思いやりのある子
- 自ら遊び、自ら学習する子
- 人や状況に、しなやかに対応できる子
- 自ら考え、判断し、表現できる子
- 自ら心と体を鍛える子

(3) 目標具現化の柱(中期目標)

【「きく力」「ことば」を育て、地域社会とつながる学校】

「つながる活動」: 少人数だからこそできる「つながり」をいかした協働の学びがあふれる学校

「つながる学び」: 「きくこと」と「ことば」を大切にした聴覚障害教育の専門性と「分かる」授業を目指す学校

「更なる連携」: 諸機関との連携を更に深め、県西部地区のセンター的機能を発揮する学校

2 本年度の取組(重点目標はゴシック体)

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
つ な が る 活 動	「チーム 浜聴」で の協働的 活動、「地 域」との 協働的な 学びの充 実	・身近なモノ・コト・ヒトを生かした交流活動の充実（学部間交流、学校間交流、地域の人材活用など）	・幼児は、地域の人や他学部の児童生徒と、一緒に活動したり、自分から働きかけたりすることができている。	幼稚部
		・地域の「ヒト・モノ・コト」に触れる体験や活動の推進（上島小交流、沼津・静岡聴覚との交流、地域の人材活用、校外学習、自主通学等）	・児童は、自分の考えをもったり、友達や教師と考えを伝え合ったりすることができている。	小学部
		・地域社会に出て、自ら様々な人と関わる機会の設定（高台中交流、総合的な学習の時間等）	・生徒は、マナーや相手に応じたコミュニケーションの方法を身につけることができている。	中学部
		・様々な場面を想定した非常災害訓練の設定 ・地域や家庭と連携した防災学習を設定	・幼児児童生徒は、自分や他者の命を守るために、どう動くか考え、自ら行動することができている。 ・教職員は幼児児童生徒の命を守るために、緊急時の自分の役割を理解して、状況に応じて自ら判断し、動くことができている。	保健防災課

		・外部講師を招聘しての幼児児童生徒、保護者向けの姿勢について学習会を実施 ・体ほぐしの時間の設定	・幼児は、教師の言葉掛けを受けて良い姿勢をとることができている。 ・児童生徒は、姿勢と健康とのつながりが分かり、良い姿勢をとることができている。	保健防災課
		・食育授業の実施 ・家庭へのおたよりの発行 ・地域の食材を使った給食の提供 ・保護者の給食体験 ・アンケートの実施	・幼児児童生徒は、食べ物と健康とのつながりが分かり、苦手な食材への挑戦やマナーの習得など、食生活にいかすことができている。	保健防災課
		・多様な図書に触れるための外部図書館の利用と、図書を手にとりやすい環境の整備	・幼児児童生徒は、自ら進んで本を手に取り図書室や図書コーナーを積極的に活用できている。	生徒指導課
		・キャリア教育プログラムの推進とキャリアパスポートを基盤とした成長支援	・児童生徒は、キャリアパスポートを活用して、自分の気持ちや得意なこと、興味や伸びてきた力を理解し将来像に繋げようとしている。	生徒指導課
		・学校経営予算の適正な予算配分と計画的な執行	・教育効果を精査した上で適正かつ計画的に予算を執行し、各分掌等配当予算の12月末時点執行率を80%以上とする。	事務部
	教職員の協働による効率的な業務の遂行	・個別の指導計画等、統一様式活用に向けた学習会の実施	・教職員は、生成AIを活用した個別の指導計画の作成方法を理解し、新様式で作成することができる。	教務情報課
		・日課、行事の見直し、チームでの指導体制による教材研究等の時間の確保	・職員の時間外在校等時間の月平均30時間以下(R7実績 4月:32H、5月:31H)	全教職員企画会
	つながる学び	・互いに学び合う校内研修の設定 ・交流活動を生かした遊びの充実 ・言語指導の充実(傾聴態度・口声模倣・キューサインの徹底)	・幼児は、自分の思いを伝え合い、遊びを広げることができている。 ・教職員は、幼児の言語拡充と遊びを広げるための指導ができている。	幼稚部
		・皆で考え、皆でつくる研究授業 ・客観的検査を有効活用し、児童の実態を正しく把握する。	・児童が、確実に意図を理解し考えたくなる発問を設定することができている。 ・読書力診断検査等を活用・分析し、指導に生かすことができている。	小学部

		・思考を深めるための話し合い活動や授業の振り返りの時間等の設定 (委員会、交流会等)	・生徒は、聞きとる力、説明する力、課題発見力等を身に付け、学校生活の中で生かすことができている。	中学部
		・「分かる」授業づくりのための ICT 機器の効果的な活用方法を学ぶ機会の設定	・教職員は、幼児児童生徒が「分かる」授業づくりのための ICT 機器の効果的な活用ができている。	教務情報課
		・「授業づくりチェックリスト」を踏まえた「分かる」授業の実践	・教職員は、1人1回以上の授業公開を通して互いに学び合い、「分かる」授業ができている。	研修課
		・聴覚障害教育の専門性に関する研修や学習会の実施 (外部講師招聘研修、授業づくり座談会、3 豊合同夏季研修、各種学習会)	・教職員は、聴覚障害教育の専門性が高まり、「教員の話し方」が身につく、「傾聴態度」の指導ができている。 ・教職員は、個々の課題に応じて、幼児児童生徒の言葉の拡充を図るための言語指導を実践できている。(目標 70%達成)	自立活動課 研修課
		・各学部と連携した行事等の参加、参観などの実施	・教育相談担当は、利用者のニーズに応じた「きこえ」や「ことば」に関する情報を提供している。	相談室
		・音声、身振り、手話単語など聞く、話す、見るなどかわり方のモデルの提示	・乳幼児教室を利用している親子は、様々な音に気付いたり、多様な手段でやりとりをしたりして遊ぶことができている。	乳幼児教室
		・ペア学習や動画等を利用した本校児童生徒との意見交換の実施	・通級指導教室の児童生徒は、意見交換をする中で、様々な考え方があり、自分の思いをもつことができている。	通級指導教室
更なる連携	信頼を基にした支援の充実と積極的な情報発信、ニーズにこたえる支援の実施	・課題解決に向けた外部機関との積極的な連携 ・『今、身に付けるべき力』について、保護者と教師間で共有	・家庭や外部機関と連携し、児童生徒の課題や家庭のニーズに応じた支援ができている。 ・児童一人一人に応じた自立に向け、保護者と話し合い、情報共有できている。	小学部
		・学校見学会、難聴児担当者研修会等の実施、連携高等学校、園、小・中学校への訪問支援を実施 ・事後のアンケートを基にしたアフターケアの実施	・コーディネーターは、諸機関のニーズに応じた教員と連携しながら支援ができている。	コーディネーター
		・視覚特別支援学校寄宿舎との舎生支援方針の共有と実施、合同での研修	・指導員や寮務主任は、安全安心な寄宿舎運営と効果的な自立支援のために、視覚特別支援学校指導員を交えて連携を深めている。	寄宿舎